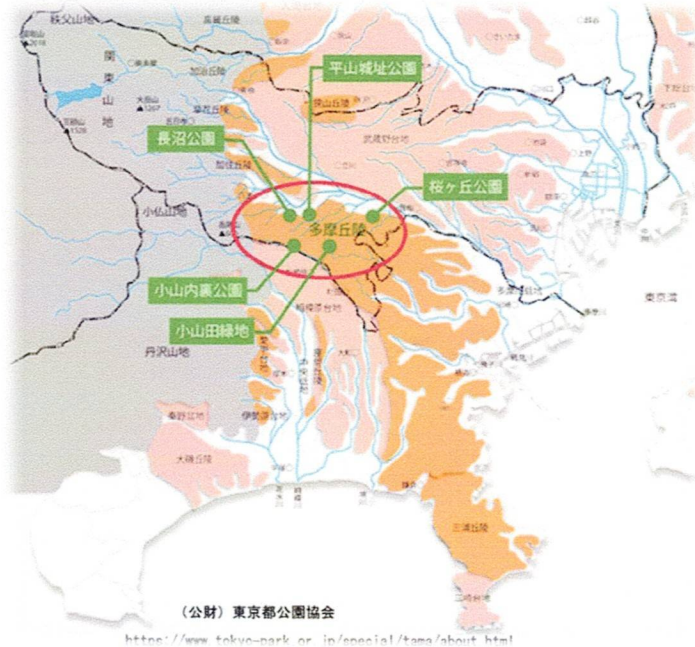


おおくりがわ JOMON
～大栗川のほとりから～

第 6 号
2026.11.20 発行
責任者：堤　直樹
ookurijohmon@gmail.com

縄文時代と自然環境_③

会報第５号でも採り上げた通り、現在の地形は縄文時代とは変化していますが、南関東を立体的に見ると、三浦半島から埼玉方面に南北に延びる丘陵地（凸面）と都心方面の（凹面）から出来ています。この丘陵地の北部・多摩地域の概ね真ん中辺りに大栗川があります。



獲物を求めて特定の住処を持たず移動して暮らしていた旧石器時代が終わり、約１万６千年前からは気候が温暖になり、落葉広葉樹の森が広がりました。イノシシやシカなどの小型動物や木の実を採集できるようになり、煮炊きが出来る「土器」も発明されました。

このような時代になると、移動しながら暮らすよりも、地面を掘って、もっと便利な「竪穴住居」を建て、仲間で暮らすようになりました。どこに建てるのが良いのか、当時も良く考えたはずです。

狩猟採集から定住化への過程にも諸説ありますが、この地域も当時から魅力的な土地だったのかも知れません。

（大栗川縄文クラブ代表　堤 直樹）

お知らせ

先日の活動の様子です。

	ファミリーイン堀之内お話し会	由木中央市民センター祭り
開催日	10/29（木）	10/31（土）・11/1（日）
様子		土鈴  
コメント	人が時間や社会の中で経験し、紡(つむ)いできたことを語り合う意義は、縄文も同じです。	QR コード ☞